

マスコミでも注目された

「帰宅支援マップ」を

本学卒業生が製作

地理学科卒 川村哲也氏

東京で昼間、巨大地震が発生した場合、数百万人の帰宅困難者が出るのが予想されている。昨年8月1日「震災時帰宅支援マップ 首都圏版」が昭文社から発

売されると、マスコミにも大きく取り上げられ注目を集めた。発売1週間で50万部を売り上げ、地図としては空前の大ヒットとなった。実は、発売直前の7月

23日に東京で震度5の地震が発生し、浦安などで帰宅困難者が多数出たことも追い風となった。

この地図の製作に携わったのは、平成8年3月文学部地理学科を卒業した川村哲也氏。地震により都心から郊外の自宅に徒歩で帰宅する場合を想定し、東京から放射状に延びる12本の幹線道路を6月に歩いて調査し、帰宅難民にとって必要な情報を地図に盛り込んだ。

道路情報は詳しくない。そこでポケットに入るサイズで、進行方向が常に上になる紙地図が帰宅難民にとって最も使いやすいという結論に達したという。

学生時代から旅行が好きであった川村氏は、地理学科に入って野外巡検などフィールドワークを伴う授業にも積極的に参加し、自分の興味を深化させたことが



震災時 帰宅支援 マップ 首都圏版

折込価格



災害時にはインターネットは使えないし、都心で働くサラリーマンは自宅までの

地図会社へ進むきっかけとなり、この地図の開発へと結びついたといえよう。

(文学部教授 橋詰直道)